

子どもの居場所を拠点にしたヤングケアラー支援

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



【法人の紹介】



スクート

2019年設立 NPO法人school (代表理事：内海博文)

フリースクール
保護者からの相談
親の会・勉強会開催

2021年 市内初の「出席扱い」可能な民間施設承認

2022年 大村市と日本財団が連携協定を締結

2023年2月 NPO法人school 「まっなぎや」

【目次】

①ヤングケアラー支援事業の紹介

②子どもの居場所「まつなぎや」の紹介

③子ども若者との関わりから、ヤングケアラー支援について学んだこと

ヤングケアラー支援事業の紹介

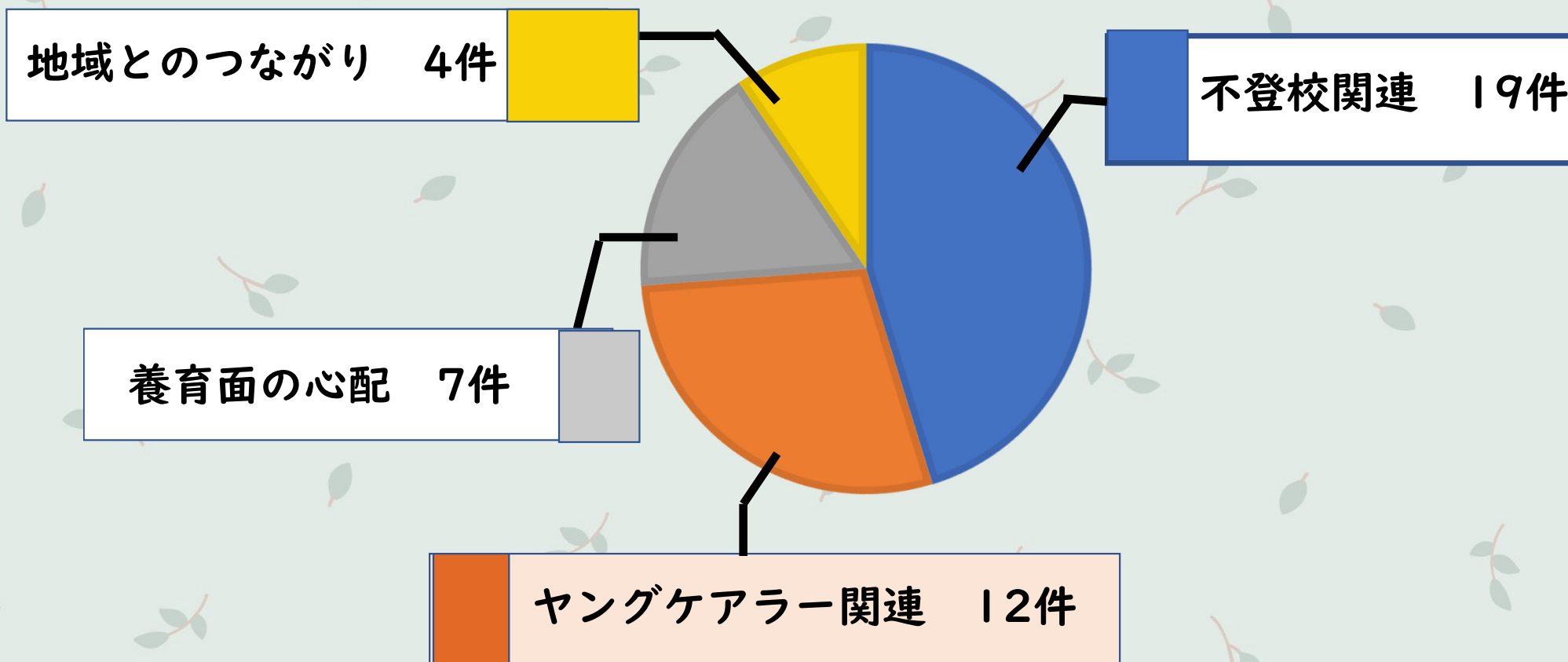
①相談支援事業

②広報・啓発事業

③子どもの居場所事業

①相談支援事業

【相談内容と相談件数】



令和5年3月～令和5年10月

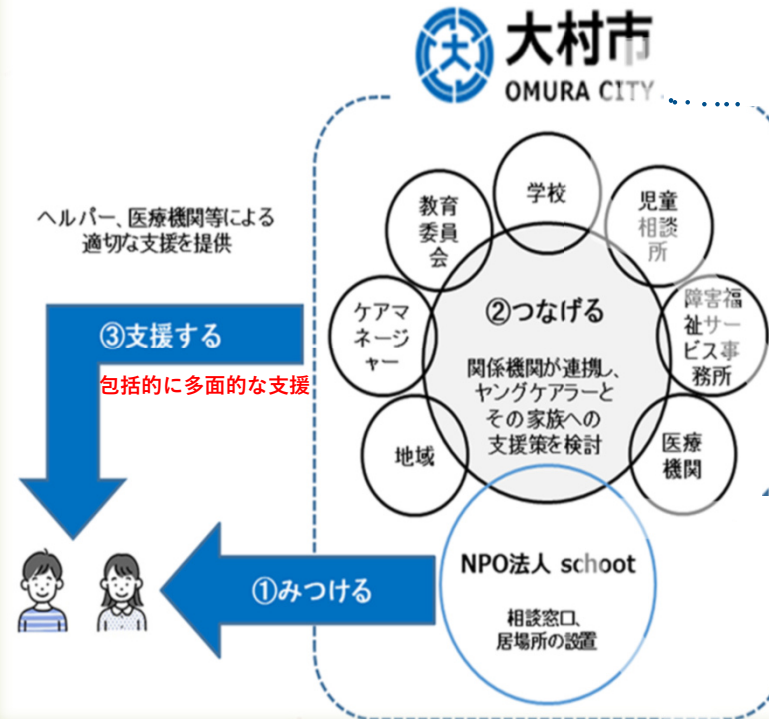
②広報・啓発事業

【大村市ヤングケアラーの支援件数】

2022年 **3件**



2023年 **16件**
(1月～6月)



日本財団資料より引用

③子どもの居場所事業

子どもの居場所 「まつなぎや」

大村市竹松本町1000-22

☎080-4285-0279





●子ども若者との関わりから、
ヤングケアラー支援について学んだこと

幅広く出会う子どもに対して、丸々関わる



ヤングケアラーの存在に気づくことができる



ご清聴ありがとうございました

民間支援団体や当事者団体の活動とそれを支える 県民や地域の理解・専門職や行政の後方支援の重要性

2024年1月13日

高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会よりよりホームズ

飯田 彰吾

よりよりホームズについて

- ・ 正式名称「高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会よりよりホームズ」
- ・ 小児期に高次脳機能障害を発症したか、その疑いのある子どもと家族で構成
- ・ 2022年5月14日発足、現在県内9家族が参加
- ・ 長崎県高次脳機能障害支援センターと連携
- ・ 当事者・家族の交流、学習会やイベントの開催
- ・ よりよりホームズの名前の由来=長崎伝統のお菓子「よりより」のように、家族同士が固く結びあい、関係機関を巻き込みながら活動していく

高次脳機能障害について

- ・ 高次脳機能障害は、交通事故による脳外傷や脳の病気などで発症（後天的）
- ・ 記憶障害：何度も同じことを質問する、約束を忘れてしまう、覚えられない
- ・ 注意障害：集中力が持続せず疲れる、二つのことを同時にできない
- ・ 遂行機能障害：計画を立てられない、指示してもらわないとできない
- ・ 情報処理速度の低下：作業がゆっくり、会話についていけない
- ・ 社会的行動障害：感情コントロールの低下、他人の気持ちの理解が難しい
- ・ 「見えない障害」だからこそ、当事者も家族も孤立しがち

小児期の高次脳機能障害について

- 小児期に高次脳機能障害を発症する事例が少ない
- 高次脳機能障害を発症する原因となる出来事（事故、脳出血等）も様々
- 身近に症例がなく、ロールモデルもないので、自分の子どもが将来どのようなようになっていくのか見通しがなく不安
- 社会性を身に着ける前の小児期の発症である
- 特に遂行機能障害など、進級・進学に連れて問題が目立ってくることもある
- 特別支援学校、特別支援学級、普通学級、選択肢は色々あるけれど、自分の子どもの場合どれを選択すればいいのか分からない
- 発症前に付き合っていたママ友・パパ友には、子どもの高次脳機能障害について中々話しづらい

再び、よりよりホームズについて

- ・ 2018年に長崎県高次脳機能障害支援センターの支援により交流を始めた頃、自らの子どもの障害と生活の状況について大粒の涙を流しながら話していた家族が、2022年によりよりホームズを結成したときには、会えば笑顔があふれるようになった。



当事者団体、家族会の持つ力、作る意義

すなわち、ケアラーの「精神的負担・不安」を軽減する力

よりよりホームズで大切にしていること

① 語りと共感

- ・ 定例会で、一つの家族に子どもの障害との生活史（物語）を講師役として語ってもらう
- ・ 語る方にも聴く方にとっても、語りと共感が、子どもが高次脳機能障害を発症した苦しみ、症例が少なく今そこにある未来さえ見通せない苦しみを、軽減している

よりよりホームズで大切にしていること

②兄弟児も主役

- ・ 兄弟児は、ケアをする人でもケアされる人でもないけど、両者ととても密接な関係にある存在
- ・ 兄弟児もよりよりホームズの一員、主役として位置付けて交流
- ・ よりよりホームズの活動に参加する中で、人生の途中で高次脳機能障害を発症した当事者の障害特性について、兄弟児の理解も深まる

①、②から、会員間、家族内で支えあう力を高めている

民間支援団体・当事者団体の活動支援について

- ・ よりよりホームズのような小規模団体は、小規模であるからこそその利点（深い語りと共感）と困難性（人的、財政的）がある⇒民間支援団体・当事者団体の育成と支援を
- ・ 小児期（乳幼児→学童→中学・高校）→青年期→壮年期と途切れない専門職の関与と要となる行政機関の強化を
- ・ ケアラーへのアプローチが困難になっている（地域のアンテナの弱化（自治会、PTAの加入率低下等））⇒ケアラー支援条例が、自己責任論やケアを家族が抱え込む状況の改善への一歩